

< 第 1 回親水空間ワーキンググループでの主な意見(平成 25 年 10 月 16 日開催)>

・ : 委員からご意見 : 事務局の回答

B池の導入機能について

- ・ 地元の人達は、境川遊水地と大庭遊水地の中間くらいが良いと考えている。
- ・ 一次池には水が常時あるのか。
 一次池は、今の治水施設の計画は、全て排水してしまう形になる。
- ・ B池の基本方針に関わることなので、治水施設として譲れるところと譲れないところをはっきりさせないといけない。
- ・ B池だけに特化してビオトープを考えるのではなく、各池ののり面等の可能なところはビオトープ的な考え方を取るということにしておきたい。
- ・ 親水空間は、人が入らないような静かな空間とアクティブに人が動くような空間を分けておく必要がある。
- ・ この場所にどのような植物が生えた状態になるか、ということから逆算しないといけない。B池全体としては湿地の環境ではない。常時水がある境目をどこに想定するかということにかかってくる。
- ・ 次回、B池をどのようなものにするか、1～2案出してもらおう。水面が主体なのか、草地をどのようにするか。
- ・ 地域の意見としては、きれいな水で遊ぶだけではなく、水辺の生き物が見られて、遊べてということまではワンセットだと思う。
- ・ 駐車場を設置することは決まっているのか。
 素案イメージとして入っているが、上部利用の導入施設の検討とともに考えていくということで良いと思う。
 配置の形も変わってくると思う。
- ・ 駐車場を集約することは可能である。
- ・ 大庭遊水地では、木道は擬木の上に板がのっている。最初から割り切ってしまった方が、管理上良いのではないか。
- ・ 木道は、越流した時に木が引っかかってしまう状況があるので、排水する時に木が引っかからないような方法で設置すると良い。
- ・ 基本的にはA、C、D池が都市的なスポーツ広場になってくるが、二次池に施設を100%作るような形ではなく70～80%くらいに施設をおくかどうかという状況である。残り20～30%は、生き物空間づくりに使える、と考えていた方が良い。
- ・ 藤沢市の場合、ビオトープネットワーク基本計画の中で、引地川と境川は、河川を中心とした軸線として極めて重要となっている。湘南台高校から下土棚遊水地の一次池とのり面の草地については、管理手法次第でビオトープネットワーク上の効果が生まれるのではないか。
- ・ A、C、D池との関係を考えて上で、B池の性格づけをどうするか。上部利用の前提条件となっているが、河川の性格上、水辺が無いと駄目である。B池は、水辺を中心に、湿地があり、湿地には乾いているところや堆積している所もあるようなビオトープという基本方針で行った方が良いのではないか。

次回のWGでの検討について

- ・ 河川管理者として、基本的な条件として押えておかなければいけないことをきちんと出してもらった必要がある。
- ・ 親水空間というものは、静的な親水空間もあり、動的な親水空間もあるので、どのように考えるかということを示してもらえればと思う。
- ・ 基本的に、水面を創り出すということなので、面積的なことや深さなどは、河川との関係も合わせて検討してもらいたい。模型の作成など、立体的なイメージができるものがあると良い。